

地水火風

牧野 恒一

本紙2月10日号でロサンゼルス大火について書いたばかりなのに、今度は日本や韓国で大規模な林野火災が同時多発したため、再び林野火災を取り上げるようになってしまった。

2月～3月の大規模林野火災

2月から3月にかけて、岩手県大船渡市で大規模な林野火災が発生し、平成以降で最大規模の2千9百haの林野が

番号	火災発生場所	発生日	鎮圧日	被害状況	出動消防隊等(最大動員日)				
					地元消防	消防団	応援部隊	消防防災ヘリ	自衛隊ヘリ
1	岩手県大船渡市三陸町	2月19日	2月25日	342haの林野内に焼損箇所所在	2月21日 49名	2月23日 291名	2月25日 42名	2月23日 5機	2月23日 6機
2	岩手県陸前高田市小友町	2月25日	2月26日	陸前高田市と大船渡市の林野約8ha	2月25日 70名	2月25日 735名	2月25日 39名	2月26日 2機	2月26日 2機
3	岩手県大船渡市赤崎町	2月26日	3月9日	林野約2,900ha、死者1名、焼損した住家102棟(うち全壊76)、住家以外108棟(うち全壊95)	3月10日 59人	2月26日 345人	3月4日～ 19日 81～83人	3月2日 7機	不明
4	山梨県大月市猿橋町	2月26日	3月3日	林野約150ha、建物2棟	2月26日 38名	2月28日 171名	2月28日 38名	2月27日 4機	3月2日 4機
5	長野県上田市武石上本入	2月28日	3月2日	林野約100ha、負傷者1名	3月1日 79名	3月2日 198名	3月1日 16名	3月1日 3機	3月1日 4機
6	熊本県阿蘇郡南阿蘇村	3月23日	3月24日	林野約20.2ha、軽傷者1名	3月23日 12名	確認中	なし	3月23日 2機	不明
7	愛媛県今治市長沢地内	3月23日	3月31日	林野約44.2ha、負傷者3名、住家5棟・非住家17棟	3月24日 147名	3月26日 523名	3月27日 114名	3月26日 6機	不明
8	岡山県岡山市南区鮎浦	3月23日	3月28日	林野約565ha、建物6棟(非住家)	3月27日 177名	3月26日 304名	3月27日 85名	3月24日～28日 4機	不明
9	宮崎県宮崎市鏡洲	3月25日	3月26日	林野約50haの範囲に点在	3月26日 56名	3月26日 112名	なし	3月26日 2機	3月26日 6機

表 2～3月の大規模林野火災(2025年3月31日現在の消防庁災害情報より作成)

(表の3)の印象が強かったが、こうして整理してみると、その前に2月19日に発生して25日に鎮圧された火災(表の1)と、2月25日に陸前高田市で発生して大船渡市でも燃え広がって26日に鎮圧された火災(表の2)が起きていたことがわかる。地元の方に見れば、2月19日から鎮圧宣言(3月9日)が出されて避難指示が全面解除された3月10日まで、20日間以上、林野火災に脅かされ続けたことになる。

この地域は東日本大震災でも大きな津波被害を受けており、家屋が焼損した方はもちろん、避難を余儀なくされた方にもかける言葉を失うほどである。また、地元の消防本部と消防団は連日消火作業に出動している。日本の林野火災の消火作業は、険しい山の中で行わなければならない。鎮圧宣言後も、落ち葉や枯れ草の下に潜む残火の始末のため連日出動されたというところで、本当に頭が下がる思いである。

消火作業は、地上部隊によるものと、ヘリコプターによる空中消火がある。地上からの消火には地元以外の消防の応援部隊も大きな役割を果たした。当初は、相互応援協

定による近隣市町村からの応援だけだったが、2月26日夕方に岩手県知事から消防庁長官に緊急消防援助隊の派遣要請があり、消防庁長官からの指示により、青森、宮城、秋田の各県から合計45隊160人の応援地上部隊が派遣された。また、空中消火としては、宮城県など7県と仙台市など3市の消防防災ヘリのほか、自衛隊からも大型ヘリが派遣され、連日消火作業に当たった。しかし、長く続いた異常乾燥と強風のため、3月5日と6日

にまとまった雨や雪が降るまでには、消火しきることができなかった。また、2月26日には山梨県大月市(表の4)と上田市(表の5)で林野火災が発生して、ともに鎮圧までに数日を要しており、2月下旬から3月初めにかけて、日本列島全体の林野火災リスクが非常に高かったことがわかる。

3月下旬の西日本と韓国の火災

大船渡市の火災が鎮圧されてやれやれと思ったのもつかの間、3月23日には熊本県(表の6)、愛媛県(表の7)及び岡山県(表の8)で、さらに25日には宮崎県(表の9)で、またまた立て続けに林野火災が発生した。愛

媛県の火災には緊急消防援助隊が出動したが、愛媛県と岡山県の火災はまとまった雨が降った3月28日以降になってようやく鎮圧できた。愛媛県では林野約44.2haと建物2棟が、岡山県では林野約565haと建物6棟が燃えるなど大きな被害が出た。

さらにお隣の韓国でも、3月21日以降、林野火災が各地で発生した。21日に山清郡で発生した火災を皮切りに、南東部の慶尚北道義城郡や蔚山蔚州郡などでも同時多発的に発生。30日に鎮火さ

に手こずっている理由は、なぜだろうか。

最大の理由は、水の確保が難しいことである。消火には十分な水の確保が不可欠だが、山間部には池や川などの自然水利しかない。消防自動車やアクセス可能な池や川などに配置して、そこからホースとブースターポンプをつないで長距離送水するしかないのだが、山間部では車が使えないので、可搬ポンプやホースは人力で搬送せざるを得ない。このため送水距離には限界があるし、地形が険しいとさらに難しく

なると、世界で林野火災の燃え

大規模林野火災が日本や韓国でも

るまでには、消火しきることができなかった。また、2月26日には山梨県大月市(表の4)と上田市(表の5)で林野火災が発生して、ともに鎮圧までに数日を要しており、2月下旬から3月初めにかけて、日本列島全体の林野火災リスクが非常に高かったことがわかる。

3月下旬の西日本と韓国の火災

大船渡市の火災が鎮圧されてやれやれと思ったのもつかの間、3月23日には熊本県(表の6)、愛媛県(表の7)及び岡山県(表の8)で、さらに25日には宮崎県(表の9)で、またまた立て続けに林野火災が発生した。愛

媛県の火災には緊急消防援助隊が出動したが、愛媛県と岡山県の火災はまとまった雨が降った3月28日以降になってようやく鎮圧できた。愛媛県では林野約44.2haと建物2棟が、岡山県では林野約565haと建物6棟が燃えるなど大きな被害が出た。

さらにお隣の韓国でも、3月21日以降、林野火災が各地で発生した。21日に山清郡で発生した火災を皮切りに、南東部の慶尚北道義城郡や蔚山蔚州郡などでも同時多発的に発生。30日に鎮火さ

に手こずっている理由は、なぜだろうか。

最大の理由は、水の確保が難しいことである。消火には十分な水の確保が不可欠だが、山間部には池や川などの自然水利しかない。消防自動車やアクセス可能な池や川などに配置して、そこからホースとブースターポンプをつないで長距離送水するしかないのだが、山間部では車が使えないので、可搬ポンプやホースは人力で搬送せざるを得ない。このため送水距離には限界があるし、地形が険しいとさらに難しく

なると、世界で林野火災の燃え

また、林野火災の燃え

大規模林野火災が日本や韓国でも

るまでには、消火しきることができなかった。また、2月26日には山梨県大月市(表の4)と上田市(表の5)で林野火災が発生して、ともに鎮圧までに数日を要しており、2月下旬から3月初めにかけて、日本列島全体の林野火災リスクが非常に高かったことがわかる。

3月下旬の西日本と韓国の火災

大船渡市の火災が鎮圧されてやれやれと思ったのもつかの間、3月23日には熊本県(表の6)、愛媛県(表の7)及び岡山県(表の8)で、さらに25日には宮崎県(表の9)で、またまた立て続けに林野火災が発生した。愛

媛県の火災には緊急消防援助隊が出動したが、愛媛県と岡山県の火災はまとまった雨が降った3月28日以降になってようやく鎮圧できた。愛媛県では林野約44.2haと建物2棟が、岡山県では林野約565haと建物6棟が燃えるなど大きな被害が出た。

さらにお隣の韓国でも、3月21日以降、林野火災が各地で発生した。21日に山清郡で発生した火災を皮切りに、南東部の慶尚北道義城郡や蔚山蔚州郡などでも同時多発的に発生。30日に鎮火さ

に手こずっている理由は、なぜだろうか。

最大の理由は、水の確保が難しいことである。消火には十分な水の確保が不可欠だが、山間部には池や川などの自然水利しかない。消防自動車やアクセス可能な池や川などに配置して、そこからホースとブースターポンプをつないで長距離送水するしかないのだが、山間部では車が使えないので、可搬ポンプやホースは人力で搬送せざるを得ない。このため送水距離には限界があるし、地形が険しいとさらに難しく

なると、世界で林野火災の燃え

また、林野火災の燃え

大規模林野火災が日本や韓国でも

るまでには、消火しきることができなかった。また、2月26日には山梨県大月市(表の4)と上田市(表の5)で林野火災が発生して、ともに鎮圧までに数日を要しており、2月下旬から3月初めにかけて、日本列島全体の林野火災リスクが非常に高かったことがわかる。

3月下旬の西日本と韓国の火災

大船渡市の火災が鎮圧されてやれやれと思ったのもつかの間、3月23日には熊本県(表の6)、愛媛県(表の7)及び岡山県(表の8)で、さらに25日には宮崎県(表の9)で、またまた立て続けに林野火災が発生した。愛

媛県の火災には緊急消防援助隊が出動したが、愛媛県と岡山県の火災はまとまった雨が降った3月28日以降になってようやく鎮圧できた。愛媛県では林野約44.2haと建物2棟が、岡山県では林野約565haと建物6棟が燃えるなど大きな被害が出た。

さらにお隣の韓国でも、3月21日以降、林野火災が各地で発生した。21日に山清郡で発生した火災を皮切りに、南東部の慶尚北道義城郡や蔚山蔚州郡などでも同時多発的に発生。30日に鎮火さ

に手こずっている理由は、なぜだろうか。

最大の理由は、水の確保が難しいことである。消火には十分な水の確保が不可欠だが、山間部には池や川などの自然水利しかない。消防自動車やアクセス可能な池や川などに配置して、そこからホースとブースターポンプをつないで長距離送水するしかないのだが、山間部では車が使えないので、可搬ポンプやホースは人力で搬送せざるを得ない。このため送水距離には限界があるし、地形が険しいとさらに難しく

なると、世界で林野火災の燃え

また、林野火災の燃え